

杉並区立郷土博物館 平成14年特別展『杉並の地図を読む』
講演会 「地図の愉しみ」 2002年11月3日
講師 泉 麻人氏
主催 杉並区立郷土博物館

司会

ではこれから泉 麻人さんのお話を皆さんとうかがいたいと思います。
どうぞ宜しくお願いします。

講師：泉 麻人氏

どうも失礼します。先程、控え室で、いつもの展示会は女性が多いけれども、地図に関する展示会の場合は男性が多いと話していました。そう言えば、ちょっと前に『地図の読めない女、話を聞かない男』という本が流行りましたが、男性が地図好きだというのは世界的に共通するものがあるらしいのです。どうしたことなのかはわかりませんがね。

今、ご紹介頂いた通り、子供の頃から地図が好きで、家の茶箆笥の中に入っていた東京都の区分地図が、初めに良く見ていた地図だったという覚えがあります。その後、読んでボロボロになってしまい、今日は持ってきていないのですが、昔住んでいた家の茶の間に、祖母の漢方薬が入っている箆笥がありまして、その地図が漢方薬と一緒に入っていて、すごく漢方薬くさかった印象があります。

私は、そんな地図を読んでいたのですが、地図好きの少年というのは2タイプいると思います。世界が広がっていくといいですか、身近なところから段々日本地図に行って、次に世界地図に行くというタイプ、それとは逆に、僕は近所を細かく調べるといのが好きでした。

まず、地図のどこに興味を持ったかと言いますと、当時は新宿区の下落合に住んでいたのですが、その周辺の地名を段々覚えていくという楽しみがありました。バス停の名前を書き出していき、中野区の周辺を段々に覚えていくという、なんかそういうことが非常に楽しかったですね。

今日持ってきましたが、せっかくこのようなすごい装置がございましたので、地図をお見せしながらお話していきたいと思います。

これは町内会単位の地図です。いわゆる看板地図といいですか、その町の辻なんかにはブリキ版でよく貼ってあったのを縮小して、町内会で配られていたものです。これは我が家の4畳半の茶の間の壁にずっと貼ってあったもので、かなりボロボロになり、セロテープの跡が残っていますが、いまだに持っているのです。

こういう地図には、周りに、この時代の商店の広告など載っているのが非常に楽しくて、そういえばマリモヤというのは、この並びにあったとか、そういうことを思い出しながら楽しむわけです。

これもやはり町内会のものですが、かなり細かいです。こういう端っこに載っています枡豊（ますとよ）さんなんていう酒屋さんには酒、雑貨、炭、薪、があって、燃料の炭などが置いてあった時代が思い出されたり、それと、このミヤ美容室の広告には「感覚的なヘヤースタイル」なんて文句がある。こういう美容院の宣伝文句は、その頃から洒落たキャッチフレーズを町内会の地図の広告に出していたんです。

赤く塗ってある所は当時の我が家ですが、今でいうと、大江戸線の落合南長崎という駅前の交差点のすぐそばでした。昔からこんな地図を良くみていまして、子供のフィールド範囲内から段々外に向かって興味を持ちました。

それで、小学校の高学年から自分のお金で買うようになったころの地図がこれです。日地出版という、精細な地図を精力的に出版していた会社の地図でして、バス路線が点線が入っていましたね。ここの地図は私が小学校4年生頃、昭和41、2年くらいの地図ですけども、中野にブロードウェイという名前のショッピングセンターがオリンピックの年に出来まして、比較的近所の新しいショッピングセンターだったのです。落合あたりから中野行きのバスが出ているので、それに乗って行くと、2階に明屋（はるや）書店という本屋さんがあります。今はだいぶ品揃えが変わってしまいましたね。その当時は地図コーナーが充実していまして、いわゆる25000分の1の地図、登山される方用の地図や雑誌が並んでいるそこで、これを買ってきまして、今ではかなりボロボロになっています。一方、これは中野区の一部の地図で、僕がボールペンで、発見したバス路線を点線で描き入れていったものです。出版者の人が書き落したような路線を発見しまして、こうやって自らバス停の名前なんかをいれていく。こういうバス路線を見つけてきて点線で書き入れていき、この地図を自分の物にしていくという、そんなことを半ズボンの少年の時代にやっていた、それが小学校の頃の地図との付き合い方でした。

今日持ってきているものは、実際に自分で買って来た地図に見つけたバス路線を入れてみたり、ひとつの記録として使い込んでいるものと、それからもうひとつあります。その時代は子供なんでね、想像図を入れる楽しみがあって、その地図も探していたのですが見つからなくて、その頃の東京都区分地図で多摩の辺りなんかは、昭和30年代の終わり頃かな、電車の空白区域というところがかなりありましてね。そういうところに、今走っています多摩ニュータウンに行くような多摩線なんかを点線で書き込んで、途中の集落の名前を見つけて、適当にそれらしい駅名をつけて遊んでいました。そんなようなことをやっていた、それから自分が計画した路線が、何年後かに京王電鉄が実際に京王線を走らせたりするのをみて、オレは先見の明があるのだと得意になっていました。

それから、もっと自分なりの地図といえますか、小学生の頃、自転車に乗るのですが、家から友達の家までとか、小学校とかそういう間に架空の自転車バス路線というのを自分で作るんです。家のところを泉車庫なんて付けまして、泉車庫から100メートルくらい離れたあたりに宇部っていう家があったのです

が、それを宇部町とか適当に停留所の名前をつけていきまして、友達といるときでなくて、ひとりの時にそこでちょっと止まってみて「はい、宇部町～」なんて言って見るのですね。（笑）他人の表札の苗字からバス停の名前を考案してみたりですね。それからこの時代はまだ、原っぱが続いているような一画があって、そういうところは野原町なんていう名前をつけたり、近所の自分の領域の中に地図を作り上げて、その中に自転車バス路線を計画して、たまに新線を開発してみたりしましたね。帰ってきて藁半紙なんかには書き入れてですね、そんな地図を作ったりしましたね。

中学生になると物理とか化学とか退屈な授業がありまして、そういうときに大学ノートの裏側に架空の町の地図を作って遊んでいました。まず、簡単に線を交差するように書いて、駅を作って、線を伸ばして行って駅前に込み入った道筋を作って町らしくします。それから、段々とそれを発展させていく訳です。空白域のところには、点線でニュータウンの計画線みたいなものを作っていく、1ヶ月くらいするとなぞり書きして、仕上げていきます。そこにまた、前に出来上がっていた電車のところから新線を引いてきて、駅を作って自分でもそのあたりは田舎みたいのところを残しておきたいので、なかなか線書きしないで田畑が広がっている地域をしばらく残しておくのです。それを最後の愉しみにとっておいて、最終的には全部が市街地になって大学ノートの裏側の地図は完成し終わって、また新しい地図作りを始める。

最近はそういうものがテレビゲームなんかでありますよね。10年位前から、実際にテレビゲームで自分が町を作り上げていくゲームが出来るようになりました。僕の時代はそういうものがなかったので、手書きで架空の地図を作りまして、それを発展させて遊ぶなんていうようなことをしました。

地図のなにが好きかと聞かれても、分からない人には分からないと思うのですが、自分の架空の地図作りというのは自分の中での物語の世界を地図の中で作って発展させていく遊びなのですね。地図の中でボンネットバスが走っているような古い道があって、実際の町なかで出来ないようなことを地図上で楽しむということなのですが・・・。

それと、時代の記録としての地図といえますか、東京の町並ってすぐ変化するでしょ。ヨーロッパの町は何十年も、お店も道筋も変わらなかつたりするところがいっぱいあるのですが、日本の町、とりわけ東京っていうのは10年経つとひとつの商店街でもガラッと変わってしまいますし、その時代の物を完璧に残すのが難しいのです。とりわけビデオなんて無い時代ですから、その町並みもなかなか一般人が記録しておくことは出来ないわけです。まあ、そのときに、地図っていうのはそういう時代の記録を残す一番手っ取り早い手がかりだと思えるのです。平面ではありますが、僕のようにこういうバス停の名前を書き込んでいくだけでも、そこから自分なりのその時期の風景が回想されてくるという、そんな手っ取り早い時代の記録として非常に貴重なものだと思います。

その後しばらくは高校生とか大学生の頃っていうのはやはり、ストレートな若者らしくですね、外でちゃんと遊んでいたのです。それが30代を過ぎます

と、子供の頃にもともと好きだったものに回帰するという、特に男性は中年すぎると子供の頃の趣味に戻ってくる人が多いわけで、こういう地図収集の趣味も30代過ぎる頃から、結構本格的になりました。子供の頃買えなかったものも、当時、私は新宿区の生まれだったので、その周辺の中野区や練馬区それから杉並区あたりの地図しか無かったので、大人になってからこの時代の江戸川区とか墨田区とかのものを神田の神保町あたりの古書店に探しに行くわけです。昭和30年代のものがなかなか無くて、戦前とか大正とかになると、良い復刻版がでていたりするのですが、こういう近過去の年代のものというのはなかなか無いですね。

僕がよく行くのは神保町の交差点のすぐ駿河台よりの路地の角の2階か3階にあるのですが、あかね堂っていう“しゅうしゅう(蒐集)”の難しい集めるっていう字を書いて、“あかね”と読ませるようです。それで、蒐堂と書くようです。そこは地図を初めとしてガラクタ物を、例えば昭和30年代の自動車会社のちらしとか、スバル360のダイレクトメールみたいなものとか、その時代の置き薬のパッケージとか、そういった雑貨がけっこう並んでいる所でして、そこに行くと、さっき言いました江戸川区の30年代の地図が2,000円くらいでありますね、あんまり買い漁られると困るので、言いたくなかったのですが(笑)、中野区の社会科学習地図ってというのが1,200円ですね、中野区の小学校で配られた地図らしいのですが、ここに鷺宮小学校3年1組生野浩子なんて書いてあります(笑)、中野区は近いから今日、生野さんって方が来られていたりして(笑)そういう物が流れ流れて古本屋に来たのでしょ

ね。小学校3年生くらいというと、東京の小学校はだいたい3年生を境に自分達の地域を学習して、4年生で東京都を学習することにこの時代はなっていたと思います。それで中野区でこういう地図が配られたと思うのですが、中野区の産業分布などがこちら側にあるのですが、やっぱり面白いのは、友達の家なのではないでしょうか、「池上さん」と、名前が書き入れてあったりする。地図としてはそんなに完成度の高い物ではないですけど、こういうのは面白い。

この社会科学習地図なんか見ると、中野区の鷺宮のあたりとか、端っこの今は方南町に近いあの頃は多田町と言っていた方と今の南台の端っこですか、そういうあたりが田んぼばかりでして、昭和32年頃の貴重な資料となっています。中野駅からこの列車はどこに行くのでしょうか?なんて言って、いろんな各駅での降りる人口が載っていたりですね、昭和26年から36年頃に区内のどの地区に人口がどれだけ増えたか、なんていうこんな図が載っていたりもする地図があるのです。そんな地図を見つけてきました。

他にも面白い地図を持ってきたのですが、これは復刻したもので、日本地図株式会社、さっきの日地出版が15年位前に復刻しました東京都35区分の地図帳で、昭和21年9月、終戦後すぐに出版された地図です。東京都が23区になるのはその翌々年の23年くらいですかね。その直前ですので35区なのです。この地図は戦災焼失地区の表示ってというのがひとつの売り物になっている地図で、こ

うやって開けますと、赤坂区、麻布区っていう現在の港区北部の方ですが、この赤く塗られた所が空襲で焼けた地域で表紙になっています。杉並区は、けっこう使うのでバラバラになって壊れてきているのですが、東の方南町のあたりなんかだとこの周辺、それから和田町の辺りですと、この辺に空襲の後があって焼けていますね。

こういう地図を見ると、その後、東京の町は随分変わってしまったことがわかるわけですが、仮に戦争より前の建物が残っている地域のひとつの手がかりになると思います。僕らみたいな戦争を知らない世代はニュース映画、昭和史のドキュメントなんかでは空襲がすごかったと分かりますけど、地図でみると東京は実際これだけ焼けているのだなと、地図上からも想像されてくるっていう貴重な資料ではないかと思うのです。この地図も85年に復刻されたのです。現在は日地出版は無くなってしまいましたので、なかなか手に入らない物らしいのですが、ぜひ、リバイバルして欲しい一冊だと思います。

これも10年くらい前に地図の店で見つけました。復刻された地図で昭和33年の『大東京立体地図』という地図で、人文社というところが出したもので、この地図の面白いところは、都心部しか載っていないのですが、建物の格好まで図解されているのです。銀座のあたりはこんな感じですね。昭和33年の銀座の建物の感じっていうのは、僕はこの辺は覚えてますね。ここは森永の地球儀塔っていう、地球儀の格好をして周りに森永の大きなチョコレートの宣伝が帯みたく巻かれています。この地球儀塔っていうのが80年代の初め頃まで残っていました。僕が小学校の高学年の頃、グループサウンズ・ブームで、タイガースとか、いろいろなバンドが出てきまして、萩原健一がメンバーのテンプターズというグループが、森永エールチョコレートのCMをやっている時に、この地球儀塔の帯のところに5人乗って、空に向かってエールチョコレートを揚げていたCMがありました。その時、すごくテンプターズが羨ましくて（笑）そういう銀座の変わったオブジェというか、広告塔を乗せたビルなんかは、この時代いっぱいあって、これは星型マークのナショナルの広告塔だと思います。星というかヒトデみたいな格好でね、ナショナルキッドというヒーロー者の番組で、月光仮面みたいな日本版スーパーマンの番組があって、ナショナル提供の番組だったのですが、そのナショナルキッドが始まる時に、この上に確かナショナルキッドが乗っていたのですよ。そういう当時の銀座の風景っていうのが、この地図を良く見ると分かってきますね。

たまに昭和30年代の映画がリバイバルでやっている時に僕が「おおっ！」と思うのは、屋根の上にこういうレンガ塔の小さいのが乗っているところがいっぱいありまして、その時代の風景っていうのが回想される手がかりとなるわけです。

これは昭和33年頃なので、すでに数寄屋橋のお堀が埋められて、ここに最初的高速道路が作られました。最初は東京高速道路っていうやつで首都高と管轄が違うのですが、この東京高速道路は昭和33年頃作られたのだと思います。よく昭和30年代の銀座の夜景というのは昔の東京の写真集に載っているんですよ。

こっちから不二家とか和光とかあってね。その当時の夜景って言うのが、がらがらの高速道路の上から撮っているというパターンがけっこう多いですね。この部分が数寄屋橋の上に作った最初の高速道路で、この時代はまだ、東銀座のところに堀川が残っている時代ですね。

この川の印象ですが、僕46歳ですけども僕の時代になると殆ど無くて、ただ、新橋演舞場の前を流れてずっと京橋の築地の方に向かって流れている川という印象です。それが昭和30年代の映画の中に出てきていて、ここにボートを浮かべたアベックが遊覧していたりですね、水のある銀座の風景というのは今見ても「良い風景だなあ」と感じます。

成瀬巳喜男監督の『秋立ちぬ』という映画がありまして、昭和35年の映画で、田舎から来た小学校6年生くらいの男の子が主人公なのです。男の子の父親が病死して、母親の知り合いで築地辺りの八百屋にあずけられるという物語です。一緒にやってきた母親が仲居さんで入った、このあたりの割烹料理屋のオシャレな女の子と恋に落ちるとい、小学生同士が恋に落ちるといいますか、ちょっと、仲良くなって川沿いを歩いたりするのですね。デートで松屋のデパートの中を探検したりするシーンが出てきまして、その中で松屋の屋上ってというのが、あっ、松屋じゃなくて松坂屋でしたね、松屋もありましたよね。屋上に展望台が付いているのですが、普通の屋上の上からもう1階上に上れるというね、わざわざ外を見るための一角があって、そこの上から外を眺めるなんてシーンが出てくるわけですけども、この時代の都心風景が見事に記録されている地図といいますが、これを作った時点では記録しようと思ってはいなかったのだと思うのですが、結果的にこういうものが復刻されると非常にそういう時代の貴重な町並みの資料になるわけです。

これで思い出しましたがけども、この間、ここにも出ていますが、丸ビルに行ってみると、丸ビルっていうのは紛らわしいですね。丸ビルのこちら側に新丸ビルっていう古い新丸ビルが残っていて、間違っってそっちのビルに入っていたりしてね。いわゆる新丸ビルっていうのは昭和26年に出来たのです。元の丸ビルを真似たというか、新になったのですが、今ある新丸ビルっていうのが元の面影を残したビルになっているのです。結局、新丸ビルは東京駅から近いので地方からの観光客の方が、わりと手っ取り早く行けるということで、行く人が多いらしいですね。新しい丸ビルっていうので、その新丸ビルに入る人が多いのかな。入り口のところに「新しい丸ビルはあちら」って書いてあって（笑）実際に見ればこれが最近出来たとは思わないでしょうけども、非常に紛らわしくて元の丸ビルを改築して新しい丸ビルっていうのも不思議ですね。

あの辺を歩いていると気付くのですが、皆さんの中にも行かれた方も多いと思うのですが、かつての丸ビルの雰囲気を外側の部分だけ、本でいう腰巻っていう、下の5,6階部分を帯のように残したような新しいビルっていうのが多いですね。大手町の大和銀行とかですね、有楽町の方に歩いて行くと、幾つかのビルはかつての古い洋館を外側だけ残して真中に高い高層を建てている。あれ

を見て思ったのですが、将来的に都心のビルというのは、かつてのレトロな部分を外側だけ残して真中に高層のやつを「どさっ」と、建てるっていう、腰巻レトロビルみたいなものがこれから増えるのかなと考えたのです。

丸ビルの建物もここに描かれていまして、昭和33年と言えば、たった50年しかたっていないわけですよ。45年くらい前だけでも、ここに描かれているような建物などは、殆ど残っておりませんので、僕が社会人になった20代の頃なんかは別に目もくれなかったような古いビルが、今残っているとすごく珍しかったりするのですよ。まだ、あんなのが残っているのかというね。そんなような建物が増えたというか、東京の町はすごく変わりやすいとつくづく感じるのです。

地図から離れますけどもその丸ビルに行ったついでに、ずっと日比谷の方まで歩いていったのですが、東京駅の周辺では東京中央郵便局から博報堂とかが入っていたビルのあたりが、この時代の古い建物をまだ使っていますね。その向かいのJRの高架下のところにも昔からの店が残っていて、ミルクワタンの店とかね、わりと終戦後の雰囲気っていうのかな、そのままやっているような小さな料理屋みたいのとか、麻雀屋がけっこうありまして、雀荘が高架下にあって、名前を見たら麻雀ニューヨークとか麻雀ローマっていうのを漢字にあてて、妙に国際色豊かな雀荘が多いなあと思ったのだけど、僕が推理するに、東京オリンピックの頃に、あの頃国際ブームに当て込んで、ローマとかニューヨークなんて店名を付けていたんじゃないでしょうか。

ずっと高架下を歩いて行って日比谷まで行くと三信ビルっていうのが、今ああたりに残っている一番古いビルなのかな。三信ビルっていうのはちょうど日比谷の交差点から映画館の所に入っていくと、古めかしいビルがありまして、このビルは外側にも年季が入っていて古風な感じで良いのですが、中は吹き抜けになっていまして2階に通路があるのですね。ちょうど2階の吹き抜けの欄干になっているところから、1階に並んだビルの中の商店を見下ろすと、なんとも古めかしい日活映画のワンシーンに出てくるような雰囲気なんですね。この地図にも三信ビルが入っていたと思うのだけでも、丸ビルを見学された方は、ぜひ、日比谷まで足をのばして今のうちに三信ビルを探索していただくのも良いかなと思います。

古いビルが良いのはガードが甘いところ（笑）エレベーターで上に上がっていくと普通にオフィスが入っている通路を歩くことが出来るんです。古いドアにね、三信貿易とか書いてあって、いろいろな会社が入っているのですが、そういう古めかしいオフィスで仕事をしている人は昔ながらの人ではないのですが、そういう職場を覗けるといのは、なんとなく東京のオフィス街の裏側を見るという感じで、すごくドキドキした気分ですね。昔よくあの辺のビルの屋上で中の職員がバレーボールとかやっていたね。今はだいたい屋上は閉鎖されていますけどね。

一度、丸ビルが古い建物だったところに屋上まで行って、警備員に呼び止められたことがありまして。なぜ出られなかったかと言いますと、あの頃は70年代

の終わりに、三菱系の企業爆破事件っていうのがありまして、あれを機に警備上、屋上を閉ざすという会社が増えたというような話を伺いました。かつては、ああいうビルの屋上は、開放的な場所だったので、それもちよっと残念な気がしますね。

地図の話から反れましたね、こういう立体地図という面白いものが、かつては出ていたわけです。古い地図というと、僕の場合、自分の物心つく頃のうろ覚えの近所の町並はどうなっていたのか、といったような物を探り当てるとというのが、一番自分の中の刺激の強い喜びなんです。おそらく昭和の5年生まれくらいの方は昭和9年代、10年代の地図が欲しかったりしてね。僕の場合は昭和31年生まれなので、ちょうどその記憶がほのかにあるような時代の昭和35、6年頃の地図が一番見たいと思ったりするわけなのです。

そういう地図っていうのは先程申し上げましたように、なかなか神保町あたりの古書店に行っても品薄のようで、僕がよく行くのは大きい図書館の地図の閲覧コーナーでして、国立国会図書館の別館か本館の3階か4階に地図専門の部屋がありまして、そこへ行くと全国各地の、東京とか各地方別にカードがあって、何年ごろの地図なんていうのを引けるわけなのです。そこに、古い住宅地図を暇な時によく調べに行くのですが、あそこの国立国会図書館の雰囲気っていうのは非常にクールな人が多くて、だいたい受付のところにも能面のような顔した女性がいてね（笑）なにも物語らずみたいな感じの人で、妙に厳しいのですよ。貸し出しは1度に5冊までとか、もっと大盤振る舞いしてくれればいいのだけど、コピーは1冊につき1ページとか、すごく規約が厳しいので結構面倒なのです。

だいたい住宅地図でも、家の名前とか家の形とかちゃんと入っているのは昭和38年くらいのもからかな。それ以前からあるのですが、それ以前のものは地図会社がヘリコプターで航空撮影を出来なかった時代なのだと思います。たぶん地上から調べて家なんかを順に並べただけなのだと思うのです。航空写真を元に家の間取りとか、日本家屋のお屋敷だとこのあたりにこういう形で棟があって脇にこんな屋敷があると、雰囲気が分かるような地図っていうのが、だいたい東京の場合38年くらいのもから揃っておりまして、その辺をみるとかなり僕の子供時代のその時代の雰囲気っていうのが伝わってくるのですよ。

その後、そんな地図をこまめに調べるのが趣味になりました。子供の頃、丸山に行くバスに乗ったときに、確か途中から道が狭かった個所はどうなっていたのだろうかと思って、その場所を探してみたりですね。いまから2年位前になりますが、よく車で通りかかる場所に古い住居表示板が残っている店がありまして、これが目黒の駒場あたりなのですが、僕が車を運転している時によく信号待ちして止まる横側の古い店の壁のところに、昭和40年代の住居表示板、昔のブルーのやつですね、青塗りに白で町名が書かかれています、瑠璃（ほうろう）引き古い住居表示板です。そこにたまに広告が入っているものがありましてね、だいたい近所のカメラ屋とか、そういうところのものが入っていましたね。目黒で見つけましたその住居表示板に、目黒温泉って広告が入ってい

た。良く見ると下に大鳥神社際（きわ）って出ているのです。際っていう字は国際の際で最近使わないですけど、最寄りの場合に、かつて際（きわ）なんて表現を使っていましたね。そこに電話番号が出ていたのです。市街番号が2桁の時代でね。つまり杉並区だと今は5328とか、4桁ですよ。また、杉並区あたりだと37とか2桁で、あれは昭和35年の初めくらいに3桁にされたと言いましたから、その前後の看板だと思うのですが、幾つか予想してかけてみましたが、当然、その目黒温泉に電話をかけても使われていないのですよね。目黒温泉のありかは分からなかったのですよ。そこで国会図書館の古い住宅地図を調べたら目黒温泉が出ているのではないかと思ひまして、先程の地図室に行きまして、大鳥神社周辺の地図を探ったのです。大鳥神社って環6と山手通りと目黒通りがちょうど交差しているあたりの角にある大きい神社ですけども、その周辺の地図を調べたのですが、昭和30年代から見ても目黒温泉なんていうのは見あたらない。もう少し調べてみると、大鳥神社の横に目黒ボーリング場っていうのがありました。よくああいう亀戸温泉とか平和島温泉とあって、途中、ボーリングブームでボーリング場に鞍替えしたからそれかなと、推理してみたのです。それと、もう少し視点を変えて、少し離れた道の向こう側を見た時にですね、目黒川がありまして、大鳥神社際っていう場所ではないのですが、道をはさんだ向こう岸の奥に目黒温泉を発見しまして「やった！」と思ひましたね。そこで、その場所を探しに行こうと、国会図書館を出た足で行ったのです。今は便利ですよ。国会図書館の永田町の辺りから1本で行けるのです、南北線かな。南北線かなんかが目黒の方に繋がっているのです、地下鉄ですぐ行けるのですよね。それに乗りまして、探したのですが、目黒温泉と思われる場所にはマンションが建っておりましてね。そのマンションというのが外観からして1970年代初めくらいに建った造りの新しからず、古からずといった感じのマンションで、おそらくそのマンションが建つ前まで温泉場かなんかだったのかと思ひましてね、その一角に残っている一軒家がマンションを売ったと思われるのです。このお宅が目黒温泉の主に違いないと（笑）インターホン鳴らしたのですが、いらっしゃらなくて、しばらく張り込みをして暇をつぶしました。でも、つかまらなくて、しょうがなく名刺に「失礼ですが目黒温泉のことお分かりでしたらお伝えください」みたいな事を書きおきして帰ってきた。その後ご連絡いただいていないので、どうなっているのか分からないのです。

そういう銭湯というか東京の一般浴場に詳しい知り合いがいて、「ゲルマニウム泉という、東京の地下によく出る灰色っぽい湯を引いたようなちょっと大きい銭湯のようなもので70年代の初めの頃にあった。」と、その後伺いました。まあそういうたまたま車に乗っている時に町で見かける古い住居表示板の広告を発端に地図で調べて元のありかを探しに行く、そういうようなのもひとつの小さな旅ってやつですね。そういった意味で古い地図を面白く活用できる方法もあるわけです。

もうひとつ郷土博物館の近所の話ですが、知り合いの不動産さんからただ

きました1972年頃の杉並区の住宅地図がありまして、そこからコピーをとってきたものです。これが善福寺川沿いで、ここが済美公園で郷土博物館はこっちのほうで、ここをずっと行くと環七の方ですね。この先の済美橋超えて下流の方へくだって、ここに野外駐車場がありますが、ここにゲルンジー駐車場って名前がついているのです。ちょうど僕が杉並にいて10年くらいになりますけども自転車に乗っていて前からゲルンジー駐車場のゲルンジーが、気になっていました。初めこのお宅がゲルンジさんという名前の外国の方かと思ったのですが、そしたらここ遠藤さんって人の家です。今も遠藤さんだと思うんですけども、どうみてもここにはゲルンジさんが住んでらっしゃらないです。たまたまこの辺の昔を調べようと思ひまして、善福寺川沿いの昭和38年の地図を見てきた時なのですけども、あの、大きい野外駐車場は昭和38年版を見たときにゲルンジ牧場となっているのです。だから今日お帰りのときに下流のほうに200メートルくらい歩いていきますとゲルンジという野外駐車場がありますので、これが牧場だったのだと思って見て来てください。

それにしてもゲルンジ牧場ってなんだろうと思っていましたら、以前に阿佐ヶ谷の区民の会で牛に詳しい家畜のお医者さんの免許持っていらっしゃるご年配の方がいらっしゃって、その方のご意見ではゲルンジは牛の品種名だっているのですよ。今でもガンジー乳ってありますよね。ガンジーってスペルは良く分らないのですが、昔よく英字っていうのはいろんな音読みしましたから、ガンジーのなかのRをUにしたか、間違えたかした時のガンジーじゃないかと。ガンジー牛っていう種類の牛を育てていた牧場ではないかというところまで推理されているわけなのです。ゲルンジ駐車場っていうのもなぜゲルンジの駐車場なのか分からないですが、探り当てたら牧場だったというわけです。

(注：ガンジー：Guernsey、島の名前)

牧場と言われてみると、今もこの38年の地図のこの建物にあるこの部分かな、ここに牛小屋ってありますよね。この遠藤さんのお宅から繋がっている、この部分に木造の小屋のような物が、駐車場の一角に確か残っているのですよ。もしかしたら2、3年前くらいに壊してしまったかもしれないけど、僕の記憶ではこのゲルンジ駐車場の一角に古い牧場の小屋のような物が残っていて、牧場だと思えば、そこに干草や農具のような物なんかを入れていたと想像されるのです。ゲルンジ駐車場に最初に行った時に、その古びた小屋の中にですね、これは蛇足ですけども、古い少年マガジンが入ってしまして1965年くらいの、まだ巨人の星なんかが始まる前のです。誓いの魔球とか入っていたかな。といってもその年代の方じゃないと分からないですよ。そういう年代ものの少年マガジンが積み上げられてありまして、窓が割れていたので僕、こっそり1冊持ってきちゃいました。たぶん遠藤さんの持ち物だと思うので、どうしようかと思っているのですが、すみません。

それはともかくこういう38年くらいの地図を見ますとね、ここに田んぼ、交番の間に水田、B H食品工業っていう、もっと前の時代は全部田んぼだったのが、これは昭和38年くらいですから、その数年前くらいから町工場があちこち

に増えていったところだと思ふのです。こういう地図の面白いのは田んぼの中を農業用水と思われる水路が走っているのです。今も善福寺川の川沿いを注意して見て歩きますと側壁のところ、かつての農業用水の出入り口の穴がポコッと見当たるところがあります。この時代の農業用水だったところの一部に、現在はこの上に蓋をして、道になっているのですが、自転車なんかでここを通ると入りくんだ、くねくねした道が杉並のこの善福寺川周辺では多いですね。あと、阿佐ヶ谷団地の間とかこういうところもね。

古い地図だとだいたいそれは水田時代の用水路のなごりだと判明してくるわけで、あの辺に住まわれている方はこういうところを地元らしく裏道のように使って、結構、歩いていらっしやいます。今は脇道であるような場所が昔は水路であると古い地図によって確認されてくることがあるわけです。

よく分からないのがニューマールハイツなんておそらく外国人の住宅地だと思ふのですが、この道がずっと妙法寺の下を通っていて、中野の鍋屋横丁までずっと伸びている古い通りです。いわゆる鎌倉街道のひとつです。鎌倉街道っていっぱいあるわけですよ。その旧道の一つらしいのですが、くねくね曲がってしまっていて、ここも昭和30年代くらいまで京王バスが走っていたのですよ。昭和40年代初めくらいなのかな、京王バスの中野から下高井戸行きが走っておりまして、僕が調べてこの辺の人に聞いたのですけども、僕が持っているこの時代の杉並区の地図にそのバスの路線が描かれておりました。この辺に本村橋なんて停留所がありまして、僕はマニアックなのか、狭い路線を走るのが好きで、そういうのは良く調べるのです。調べていましたらバス車掌の話を書いた本の中に、この道で昭和20年代くらいにバスの車掌さんが亡くなった事件があったという記事で、ここは俗にいう堀ノ内七曲りって言われていたらしいのですよ。昭和30年代の新聞などを見ると堀ノ内七曲りという難所で悲惨な事故があったという記事が載ってしまっていてね。

つまりここは七つ、くねるように曲がっているからだと思ふのですが、車掌さんがオーライ、オーライと、外に出てバスを誘導している時に狭い堀の間にはさまっちゃったなんていう事故があったという狭隘な路線だったという話なのです。そういったバス路線が走っていた通りでもあるわけです。

じゃ、その地図はもう結構です。次に、これも国会図書館で苦労して複写してきたもので、欲しい物があっても幾つか選ばなくてはいけないというので、なかなか大変なのですが、この地図の中にはありませんでしたが、70年代、80年代なんかの地図でもまだ成田東のあたりに復員から帰ってきた方の収容施設みたいな建物の表示がありましてね。最近、無くなった建物で「おやっ」と思ったのはそれですね。

井伏鱒二さんの「荻窪風土記」とか、そういう杉並を舞台にした小説に描かれた場所を推理するのも楽しいことだと思います。僕がよく使うのは松本清張さんのものです。清張さんは練馬の関町とか荻窪とか最後は浜田山駅の近くで暮らされたと聞きました、松本清張さんのミステリーものは、よく荻窪とか杉並周辺が事件の舞台で使われるのですね。清張さんの昭和30年代の本を幾つか

読んでいますと悪徳官僚の愛人の家なんてというのが、今の大田黒公園のあたりなのです。近衛（このえ）さんのお宅と思われるようなお屋敷がそういうあやしい舞台に設定されている。そのあたりを特定しながら歩くなんてことをしておりました。

実際に起きた事件では、BOACスチュワーズ殺人事件が昭和34年の3月に起きました。ベルギーの牧師に容疑がかかったというもので、日本人のスチュワーズが殺されて善福寺川に死体が浮かんだという事件ですね。それを元にした『黒い福音』という清張さんの作品があるのですが、そういうものを辿って現場を探していくようなことをよくします。昭和33年から35年くらいの読売新聞縮刷版っていうのを持っているのですが、高校生の頃だったのですが、下落合の古本屋に3,000円出ていましてね。僕はエロ本目当てで行ったのですが、エロ本はどうでもよくなってそれを買ってきてしまいました。今も貴重な資料になっているのです。昭和33年から35年のその当時、僕が幼稚園の頃に見ていたテレビ番組はなんだったかな、と、好奇心で3,000円だったら小遣いで買えるかなと思い買いました。

それを読んでいきますと下段に入っている当時の広告とか事件記事とかそういうものが面白くなってきまして、ちょうど僕が持っています昭和34年の3月号の縮刷版にBOACスチュワーズ殺人事件の記事が載ってましてね。それを見ますと現場写真が載ってまして、ちょうど今の大宮八幡の宮下橋あたりから川をとらえた写真が載っていたのです。川筋は今と同じ曲がり方なのですが、もう少し水が地面に近く、あのあたりの右側に竹林が岸からせりだして、今でも竹林が残っているのですが、左側のグラウンドになっているところが、当時は一面の水田地帯だったというような写真が載ってました。死体が浮かんでいたのは宿山橋（しゅくやまばし）といって宮下橋よりちょっと郷土資料館より小さい橋がありまして、その袂あたりだったみたいですね。松本清張は、かなりリアルに描いてまして、その容疑がかかったベルギー神父がいたドンボスコ教会のドンボスコ会っていうのも、井草に実在する教会ですね。清張作品などは、ここだと思ふ場所を地図で辿って見てみるという楽しみがありますね。

もうひとつやるのは、最近ビデオが普及しましたので、BSテレビとか東京MXテレビとかでやっていますけども、古い日本の映画を再放送してまして、成瀬巳喜男監督の作品はわりと東京の小田急沿線を舞台にしているものが多く、小田急沿線というのは映画撮影所のそばにあるのです。よく東宝映画にでてくるといふ、そういう関係もあるのでしょうか、そういう映画の主人公が歩いているところに、看板が映りこみますね。そういうところで画面を静止画にして祖師谷町689なんていう場所を読みとるわけです。その時代の地図を持ってきて見ると、この道歩いてるのだあ。うれしいな。なんて（笑）。

これはビデオ屋さんに出ていてフランキー堺の若い頃の作品で「牛乳屋フランキー」っていう映画だと思うのですが、中平康監督が撮った日活の映画でフランキー堺が牛乳屋さんをやるのです。実際昭和31年くらいの森永乳業代田営

業所っていうところでやっているのですよ。代田2丁目あたりの牛乳屋を実際借りてやっていたらしく、森永でちゃんと働いていてフランキー堺もちゃんと森永の制服を着ていてね。あの辺の町に牛乳を配って歩くっていうね。それでライバルがいてそれは架空のメーカーなのですが、デビル牛乳だったかな。

(笑)ともかく悪い牛乳の配達員を小沢昭一がやっていて、二人でどっちが早く届けるか自転車レースみたいなのを町の中でやるっていうおかしい映画なのですが、それを見ていまして質屋の看板が目にとまったわけです。

「かみほ」って、「うえのほ」って書く質屋で「うわぼ」って読むらしいですね。ちょうどね、豪徳寺の先、代田とかのあたりで、その「上保質店」っていう電柱看板があって、フランキー堺が牛乳配っている時にやたらその看板が映るんですよ。「上保」っていうのはちょっと話がずれますけども、玉電とか都電の写真をずっと撮っている林順信さんっていう方の写真集にある用賀の解説のところで、世田谷の人と話していて、「上保」を知らないと世田谷を知ったことにはならないなんてエピソードがありました。世田谷周辺に多い地主さんの名前らしいのです。その映画より15年くらい後ですが、住宅地図を不動産屋さんから貰ってきて、ちょうど映画で出てくる辺りを探しましたら豪徳寺のちょっと上に行った商店街のあたりに「上保質店」っていうのを見つけまして、別にそれだけのことなんですけども(笑)。

この間、「吹けよ、春風」という谷口千吉監督の映画を見たのですが、これも昭和28年の東宝映画で三船敏郎がタクシーの運転手をしていて、脚本に黒澤明が入っていましたね。三船敏郎が当時の町なかを流しながら、乗せたお客さんとのふれあいを描くというすごく洒落た映画なんです。昭和28年は僕が生まれる2、3年前ですからよくわからないのですが、都心部とかいろいろ出ているのです。ただ、なんとなくわかる雰囲気、都電が走っていきまして、少しずつ止めて見ていると青山とかいろいろ出てくるのですが、そうやって見ていたら、三船敏郎がガソリンを給油するときに日本石油渋谷給油所っていうところに車を入れていくのですね。これが、どこかで見た感じなので、「日石ってどこにあったかなあ」と、思ったら宮益坂の上の横に二股に分かれている角のところにある日本石油だと、これが宮益坂の上の右側にあるそれじゃないかなあ。それを更に確定的にしたのは、三船敏郎が給油所に車を入れる瞬間に、カメラが反対側から撮った時に、道の片側に古い枦とか秤とかいう看板を出している店がありまして、なんか見覚えあるなと思えば、今も一軒だけ宮益坂の下から上っていった頂きのちょっと手前の左側に正進堂商店という昔のブリキに白いペンキ塗りして古い字体で、枦秤とか書いてある平屋のお店が一軒だけ残っているのです。今はもうシャッターを閉ざしていますが、その建物だけは残っていますね。周りはビルだらけになっているのですが、その秤店だけその昭和28年のまま残っているのです。古い映画の一瞬から見つけ出す喜びみたいなものがありましたね。(笑)

最近はビデオなんて装置が出来たので、古い映像シーンを止めて時間を確認することも出来るし、ビデオは古いものを見るだけではなく新しい機械が入り

込んできたことによって、古い資料の見方なんていうのがいろいろ膨らんできたわけです。そういうビデオの中の一瞬を止めて、その町並みを同定するという、この時代ならではの、ひとつの愉しみなのではないかと思うのです。最近、僕はまだそこまでやっていないのですが、今のカメラの再生技術はすごく良いらしいですね。デジタル機器を使って、昔のぼんやりした写真や映像をかなり鮮明に再生できたりするそうです。

この間、鉄道マニアの人と、話していて知ったのですが、その方が中学生の頃に撮った、古い鉄道の写真をコンピューターに入れると、ぼやけていた車両の細部なんか鮮明に再現されるそうです。だから僕も古い映画でボンネットバスなんか走りこんできて画像が悪くて方向帯が読み取れないときに、そういう技術を使って鷺宮行きとかいうのを判明してみたいと思っているわけですよ。そういう時の手がかりとして古い地図っていうのはとても大切なものなんです。

司会者

長い間、ありがとうございました。展示の方では杉並区のところを戦前の物が多いのですが扱っています。今日お話いただいたのは昭和30年代の頃の話ということで身近な幅広いお話を聞くことが出来ました。この時間ですので、何かご質問があればお伺いしたいと思うのですが、どなたか質問はありませんか。

質問者 1

さっき丸ノ内のお話を伺ったのですが、三菱の赤レンガ村っていうのは現存しているのですか？

泉 麻人さん

三菱商事のあたりののですか？赤レンガはもう無いのではないですか？移築されて、今、あの一角から離れたところに一軒赤レンガがありますよ。あれは国の建物でしたっけ？

質問者 1 3階建てでしたよね？

泉 麻人さん えっ、僕は知らないです（笑）

質問者 1

赤レンガが懐かしくてお話を聞いているうちにどうしたかなあと思ひまして。

ありがとうございました。

質問者 2

国会図書館の地図コーナーで資料をコピーなされたということなのですが、例えば、そういう地図を調べる時に杉並区だと中央図書館だとか郷土館で古い時代の地図は保管されていないのでしょうか。

司会者

うちの方で保管はしているのですが、コピーは著作権の問題があるので出来ません。コピーは図書館とか司書のいるところでしか出来ないの、法的にうちではご提供していないのです。中央図書館には2階に杉並資料室がございましてコピーですが並んでいます。図書館の方ではコピーがとれますので。そちらをご利用ください。

質問者 3

都営新宿線が出来まして、より下町の方が便利になったのですが、地図の愉しみからは離れるのですが、先生が今回言われてきた、大江戸線をどんな風に有効利用するかについてアドバイスをお願いします。

泉 麻人さん

大江戸線はビジネスで使う人は限られた人ですよ。町としてだと森下であるとか、白河ですか、ああいった比較的行きにくいようなところに行けるというか。でも、森下は新宿線でも行けたから前より便利に行けるようになったのは新御徒町、ちょうど出ると痔の大黒堂のところに出る（笑）。御徒町よりちょっと東側のあたりね。あのあたりに行くのは大江戸線が一番便利ですよ。

あとは、練馬のあたりってというのはあまり行かれないですよ。あの辺は春日町あたりに練馬大根の祖といいますか、農家の鹿島さんという方の末裔かなんかがやっている蕎麦屋さんがあって、蕎麦屋の店内の一角が大根資料館みたくなくなっていますね。結構そういう場所に行くのも面白いですね。

質問者 4

練馬区民は池袋指向で下に降りてくるっていう線がなかったから、そういった意味では大江戸線の存在は大きいでしょうね。新宿に結ぶ効果っていうのが練馬区民にとっては大きいでしょうね。

泉 麻人さん

そうですね。池袋くらいしか簡単に行けなかったですからね

質問者 5

先生もコラムの収集として電車も限られていると思いますが、自転車とかも使うのですか？

泉 麻人さん 使いますけど（笑）

質問者 5 マウンテンバイクとかを使われるのですか？

泉 麻人さん

いまの自転車はマウンテンバイクって形ではないです。上に停めてありますが、今は細いタイヤに変わったのですよ。スポーツ自転車みたいなものです。

質問者 5 遠い時でどのあたりまで行くのですか？

泉 麻人さん

僕はそんな遠出はしないですね。今までは多摩湖が最高ですね。井の頭通りの先はずっと自転車専用道路になっているのです。水道管の上を通っているで

すが。

質問者 5 すごく通りずらいですね。

質問者 6

二つほどお聞きしたいのですが、最近インターネットとかカーナビとかデジタル関係の地図などが充実してきていますが、先程からお話を伺っていますと、結構、紙の古い地図を利用されているようですが、デジタル地図なんかも利用されているのですか？

泉 麻人さん

デジタル地図は、インターネットは眺める物でそういった関係の人からソフトをいただいた地図もあるのですよね。どうも途中で操作が面倒になってね。わりと僕はダメなのですよ、デジタルが。操作を間違えて、変わらない時はすごくイライラしてしまう。結局、アスキーとか、デジタル関係の雑誌で連載をしているのですが、別に自分で地図を買ってきて探している時のほうが多いのですよね。

質問者 6

あと、もうひとついいですか？その地図も使い込んでボロボロになっているようですが、補修をしたりはしないのですか？（笑）

泉 麻人さん

それはマニアではなくコレクターの能力が僕にないのですよ。いわゆる保存能力がないわけで、ただ置いておけば良いっていうものでもなくて、わりと自分の痛みは気にならないほうですね。だからこの地図もバラバラになってしまい、惜しいとは思いますが、どうしても見られなくなったらテープで止めたりします。ほんとはもっと綺麗なのを一冊買っておけば良いのかもしれませんが、それほどまでにちゃんと置いておこうという気もなく、すみません。（笑）

最近デジタルどうので、46歳の後半になって急に老眼にはいり、それが一番。それで、今日も一応、老眼鏡を持ってきたのですが、今年の春ついに老眼鏡デビューです。（笑）こういう老眼鏡もブランドものがあるって、これはエンポリオ・アルマーニのものなのです、一応。（笑）大した値段ではないですけども、老眼鏡っていう感じのものには見えないでしょう。意外とこういった洒落た物があるのですが、それが一番億劫ですね。虫眼鏡がこんなに役に立つものだとは思いませんでした。（笑）小学校の理科の時間でもう卒業したものだと思っていたのですけどね（笑）こんな歳になって帰ってくるものだとは思わなかったですね。（笑）

質問者 7

もうひとつ、すみません。先生の本を読みましたが、都バスを乗りこなすっていうのは、私にとって非常にまだ難しいですね。あれは慣れですかね？

泉 麻人さん

私の場合、今、都バスの広報誌の原稿をやっているのですが、路線バス全体が好きで東京の路線バスを幾つか乗り歩いて、その中にも趣旨があるのです。乗りこなすってほど、乗っていないですよ。いつも旅をする感じで行っているの、たまたま新小岩っていうあまり行かない町に行って、しばらく40分くらい目的のバスが無いからって、ちょっと暇つぶそうというのも含めていく感じなのです。乗りこなすって感じではないですね。だから実際に仕事の途中に路線バスを活用するといったことはあまり無いですね。杉並のバスっていうのはわりと使うバスなのですが、乗合バス案内っていうのがありまして、でも読みやすいものでもないの、乗りこなすって考えて乗ったことはまず無いのですけども。

質問者 8

話は別なのですが、映画で映っている背景っておっしゃいましたよね。環七の神田川の水を取り入れる施設が出来ましたが、あそこは以前はタクシー会社だったのですよ。またその以前に金物屋さんがあったのですが、それが最近の日本テレビのドラマで再放送やっているのですよ。午前中に。そして、それがまともに映るのですよ。

泉 麻人さん なんていうドラマですか？

質問者 8

『俺たちの旅』っていうドラマが環七のこっこの浄水橋辺りで撮影したのですよ。

それで、樹木希林さんが角の食堂をやっていて、時々川の方から映るのですよ。それで、環七の信号の向こう側がその金物屋さんなのですよ。最近の日本テレビでやっているのです。(笑)

泉 麻人さん 環七に面しているのですか？

質問者 8 環七のほうです。神田川の角です。

泉 麻人さん そうですか。

質問者 8

神田川の水の取り入れ施設がありますよね。あそこはあれが出来るまでタクシー会社だったのですよ。それが良く映るのです。

そのひとつずれた横に釜寺さんというお寺がありますよね。あそこから向こうを撮ったときに、向こうに「いずき食堂」っていうのが映るんですよ。

泉 麻人さん 「いずき食堂」は、まだ残っているのですか？

質問者 8 残っています。

泉 麻人さん 方南町のあたりですか？

質問者 8

物語では方南町とは出ません。井の頭公園が舞台ですから。神田川の角の金物さんはまともに映りますね。

泉 麻人さん どうも参考になりました。

司会者

今のような質問は下の展示室でしてください。他に質問はありませんか

質問者 9

最近地下鉄もいろんな所に繋がっていますよね。今度、路線都市線が繋がりますよね。例えば錦糸町と鎌倉が繋がると、さっきの南北線の話であれば町や駅の雰囲気はかなりぐちゃぐちゃになってしまうと話していましたね。今後、注目されそうな町ってありますか？

泉 麻人さん

そうですね。去年、「新東京23区物語」という、以前出した「東京23区物語」の改訂をしている時に非常にその地域とか沿線での町の色分けっていうのが難しくなってきましたが、そういう意味では苦労する時代になっています。観光者としてはそれぞれの沿線に特色があったほうが面白いわけですけども、町の便利といえますか、その町に暮らす人のことを考えると実際繋がって便利になるのは悪いことではないと思うので、だから非常に複雑な気持ちですね。

自分に関係ない路線だったら不便な感じを残していた方が面白いわけですよ。それくらいの感想かな。それとネーミングですよ。町名を繋げた駅名っていうのが好きでなくてね、だらしのない感じがして。僕の実家の育った駅も落合南長崎なんて両方の町の名前をつけていて、やっぱり駅名とは歯切れの良いものであって欲しいですね。一種の趣っていうようなものを重視して欲しいなと思うのです。最近の新線で合併の駅名っていうのはしょうがないですけどね。それと、質問は注目されそうな町でしたよね。最近、よくファッション雑誌なんかで取り上げられている所とか。昔はグルメ雑誌って好きだったのですが、白金の上の通りですね。白金三光町の通りってありましてね。

質問者 9 上のほうですか？

泉 麻人さん

そうです。北里大学前の商店街の通りが結構美味しい料理屋さんが、フランス料理屋とか、美味しい和食屋とかありますね。あっちの方は地代が安いので、格子戸の日本家屋をバーにしたりして、洒落たお店が増えてきていますね。そういう、いわゆるファッション情報誌なんかで注目されている場所なのです。町並みの中に、新進の店があったり、わりと古い店が残っていたりしていますね。その道に風呂屋があるのですが、風呂屋の門前に大正時代の国旗掲揚台が残されていたり、石造りの旗を立てる台が残っていたりして、その向かいには古い団子屋がありまして、団子屋のところに雷神山下通りって古い暖簾がかかっているのです。その先の牛乳販売店の明治牛乳雷神山営業所とか雷神は風人雷神の雷神ですよ。地元の人に聞きましたら裏方の山を昔、雷神様が降りた山と言っていたなんていうのを聞きました。登って行ったら児童公園があつてね。雷様が降りてきたので、ここを雷神山と申す。なんて碑があったりしまして白金台の、位置でいうと北側の一帯なんかは面白いのではないかと思

います。都心の方では珍しく新旧のものがありますからね。このくらいですかね。

司会者

有難う御座いました。私も同じような年代で、40歳代の男性の琴線をくすぐるようなお話を伺うことができました。今年の初め、うちの方で展示会がありまして、その時の資料を読んでいましたら、「おたく」という言葉は今では良い意味では使われないのですが、本当の「おたく」はこうなのだ。と言うようなことをお書きになっていらして、ビデオテープがない時代に漫画を見ていて、それを誰が何処に描いたか、それを極められるのが「おたく」なんだという風に、それだけ極めないとおたくにはならない。というような話を聞きまして、思い出したのですが、今日お話をお伺いしまして本当に正統派のおたくだなと、思いました。（笑）

いろいろ詳しいお話、表からだけでなく裏からもお聞きすることが出来ました。このような形で我々が地図を愉しむというようなことは難しいと思うんですが、今日のお話を参考に皆さんもまた、地図を愉しんでいただければと思います。明日もございますし、その後、土日ということで2時から展示室の方で職員からもお話をさせていただきます。もし、お時間ございましたらお出かけください。

今日はどうも長い間有難う御座いました。（拍手）